



R I. 第2620地区 静岡第1グループ
三島西ロータリークラブ

週報

第2177号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 佐野 宏三 幹事 前田 博利



広重版画より 三島 朝霧

第2244回例会

2019.5.9晴

司 会

柴崎恵子君

国歌斉唱

四つのテスト

ロータリーソング

「奉仕の理想」
指揮 赤池克斗君

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 近藤 恒さん

(三島大社権禰宜・千葉君のゲスト)

西原孝次第1グループガバナー補佐(三島RC)

浅倉幸久ガバナー補佐事務局(三島RC)

会長挨拶

会長 佐野宏三君

みなさん今晩は。令和へ改元に伴い前例のない10連休になったゴールデンウィーク、旅行や観光関連業界はこの恩恵を受け活況でした。皆様方はどの様にお過ごしになりましたか？私は2回のゴルフ以外自宅でのんびり過ごしてリフレッシュできましたが、連休の後半には休みすぎで曜日感覚が鈍ってしまいました。

さて今夜は、新会員森藤賢さんと板倉千成さんの入会式です。若い2人の入会を会員一同心より歓迎いたします。後ほど西原ガバナー補佐よりバッチを着けていただきます。会員増強の必要性はクラブ全員が実感していますが、入会候補者に勧誘に行ってもなかなか良い返事が帰って来ないのが現状です。今年度、地区の目標は純増2名ですが、有り難い事に当クラブは会員44名でスタートして49名に増員する事が出来た。スポンサーの方々の方々の努力とクラブに対する愛情に深く感謝しています。

昨年7月の第1例会で会長方針として会員50名を目指すこと述べましたが、目標達成まであと1人足りません。次の原年度の12月には当クラブが創立50周年を迎え時の会長・幹事が選任されます。会員50名を維持できるとロータリー財団からの地区補助金が10万円増額されて30万円いただけます。年度も残り2ヶ月を切りましたが、49名の会員一人一人が増強委員です。皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	35/39	89.74%	37/39	94.87%
今回	40/42	95.24%	会員総数	49名

欠席者 相山君、鈴木(正)君

幹事報告

幹事 前田博利君

①本日、理事、役員会が開催され5月、6月の例会内容を確認、協議いたしました。5月、6月の例会の案内は既にFAXしてありますのでご確認下さい。

②森藤さん、板倉さんの入会式を本日執り行います。宜しくお願い致します。

2018～2019年度
国際ロータリー会長
バリー・ラシン

インスピレーションになろう

おめでとう

会員誕生日	矢野君、花房君、原君
入会記念日	木村君、亥角君、栗原君、森崎君
奥様誕生日	橋本君、亥角君、佐野君、加藤君
結婚記念日	千葉君、宇田川君、橋本君、原君

卓 話

『三嶋大社現社殿の沿革と彫刻について』を終えて

三嶋大社 権禰宣
近藤 恒さん



三嶋大社の歴史を緋く中で、社殿御造営について考慮することは、三嶋大明神の御存在意義や時代々々の信仰と直結しているのです、とても重要なことであります。

現社殿は江戸時代末期から明治維新にかけて造営されたもので、近隣においても類例を見ないその大規模な社殿群は、参拝者をして自ずと襟を正しめる荘厳さがあります。

悠久の歴史の中、鎌倉初代将軍源頼朝公が御造営を為されたのが今から約850年前のことで、それより30回程の御造営や修復の様々な記録がありますが、現社殿御造営時については世情を考えると、当時の神主・社家社人は言うに及ばず、三島宿の人々、神領民、伊豆一円の氏子崇敬者等が大変な苦勞のすえ再建したことが分かり、往時を忍ぶに、現在神勤の職員は一挙手一投足に至るまで細心の配慮も以って行動致し、御神威の発揚と社会福祉増進のため御奉仕するものであります。

又、社殿を取巻く見事な彫刻には、美術的な価値に加え、拜殿向拜の『天岩戸開きの図』『遣唐使吉備真備の囲碁の図』『源三位頼政の鶴退治の図』『平和に導くには知恵と勇気が必要』など、現在にも通ずる教訓が幾つも見て取れ、これを機会あるごと参拝者に伝播せしむことが、我々神職としての使命であり、喜びとするところでもあります。結びに、今回短い時間ではありましたが、三嶋大社のことに少しでも触れて頂く機会を得ましたことを深く感謝申し上げます、御挨拶と致します。

ガバナー補佐挨拶

静岡第1グループガバナー補佐
西原孝次君

皆さん、こんにちは。

ガバナー補佐訪問も最後の訪問となりました。地区のグループ編成替えて第1グループとなり、初めてのガバナー補佐を務めさせて頂き、各クラブを何度か訪問致しました。2月には「伊豆半島のロータリークラブは一つに」というテーマのもとLMが開催され、多数の皆さんにご参加頂き交流と友好を深める事が出来ました。皆さん本当にありがとうございました。

私自身入会以来けっして優秀なロータリアンではなく、ゴルフやマージャンをしたり、飲む、打つ、買うと友好のみを行ってきたように思います。色々な委員長を経験し、幹事や会長を任せられ、みんなが喜んでくれるのを楽しみにロータリーを楽しんできたように思います。

グループ編成替えて、三島クラブからガバナー補佐を選出する事となり、西原に打診があった時、ロータリーでは「イエスかはい、しか答えがないので、お引き受けしました。ガバナー補佐を務める事により、改めてロータリーとは何かを勉強させて頂きました。ロータリーは100年以上経って変化の時が来ております。各クラブを訪問し、地区方針やRLIの事を説明してきましたが、最後の訪問にあたり改めてロータリーとは何か、という事を皆さんに提案し、各クラブの活動に役立てて頂ければと思います。

本日は「ロータリーの心と原点」についてお話致します。ポール・ハリスがロータリーを作った時、「あなたはなぜロータリーを始めたのですか」と言う問いに対し「淋しかったから」と答えたのは有名な話です。ロータリーは、友情を大事にする団体だと言う事です。友情を大事にする団体でなければ、これだけの発展はなかったと思います。友情とは何か、より寛容でより他の人の良さを認め、より他の人と親しく交わり助け合うようにすれば、人生の美しさ喜びを得られるのではないのでしょうか。それが我々が求めるロータリーのすべてです。寛容とは何か。寛大で人を許し受け入れる事、他人の罪や失敗を厳しく責めない、少数意見を認め差別しない事です。

ロータリーは慈善団体ではありません。発展途上国の援助が目的でもありません。金集め人集めが目的でもありません。ロータリーの本質は、慈善ではなく倫理性を大事にする団体です。人の為に役立ち、モラルが高く相手の事を考え、みんなの為になるよう行動する事により、そのクラブは素晴らしく楽しくなり、みんなが集まるようになるのではないのでしょうか。皆さんのクラブを訪問し、それぞれ違いはありますが、どのクラブも頑張って運営されている。これからも伝統を守り、1人1人のロータリアンを大事にし、楽しいクラブを作っていくて頂きたいと思います。

「ロータリーは成人教育の最も優れた実験場である」最後の言葉で終わりたいと思います。ありがとうございました。

※新会員紹介とスマイルは次号に掲載します。

(週報担当:木村安紀夫)